

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

10月25日(火) 放送分

放送時間 8:00～、12:45～、16:00～

再放送 10/27(木) 7:45～、12:45～、16:00～

10/29(土)、10/30(日) 17:00～

**テーマ：「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみ
(園田学園高等学校放送部)**

市長 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生
の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。それではさっそくスタートです。
どうぞ！

<2人> みなさんこんにちは！！

<西浦> 園田学園高等学校放送部3年生の西浦 光玲(みれい)です。

<茶谷> 同じく放送部3年生の茶谷(ちゃたに) 祐衣です。

<2人> よろしく願いいたします！！

<西浦> さて。この番組に初めて出演させていただく私たち園田学園高等学校放送部ですが、

<茶谷> 今日はですね、毎年この時期に園田学園で実施される、今年でなんと13年目を迎えました「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみと、今年度の実施に関する情報をお伝えしようと思います。

<西浦> 園田学園では毎年の恒例行事となっている「休眠衣料を世界へ送ろう」ですが・・・
みなさん、休眠衣料って言葉わかりますか？

<茶谷> 漢字では「休んで眠っている衣服」と書きまして・・・

<西浦> さすが！放送部だけでなく生徒会役員として活動していた茶谷さん！

そうなんです。よくお医者さんとか病院の「医療」と聞き間違えられますが、
そうではありません。衣服の「衣料」です。

<茶谷> もう飽きた、流行を過ぎた、サイズが合わなくなった・・・

さまざまな理由でタンスや押し入れに眠っている衣料が、みなさんのご家庭にもあつたりしますよね？

そういった衣料を、学校内部だけではなく、地域の方々からもご提供いただいて、NPO法人を通じて発展途上国に送り届ける・・・という活動のことです。

<西浦> オープニングでも言いましたが、今年でこのとりくみは13年目を迎えました。それでは、この「休眠衣料を世界へ送ろう」について。

とりくみが始まった経緯やその後の歴史がどのようなものであったのかを、生徒会顧問である安松千鶴先生にインタビューしてまいりました。

<西浦> 生徒会顧問の安松千鶴先生です。よろしくお願いします。

<安松> よろしくお願いします。

<西浦> それでは最初に、この休眠衣料活動が始まった経緯について教えてください。

<安松> はい、休眠衣料活動は、生徒会としての活動は今年で10年目を迎えます。その2年前に、高校3年生の生徒が、2人か3人だったと思いますが、実行委員として呼びかけをしてくれました。で、その呼びかけにこたえて、体育の先生が教員の中心となって、生徒と一緒に活動を広めてくださいました。で、2年間はその実行委員会形式でやってきましたけれども、じゃあ、だいぶその活動も広まってきたので、生徒会が中心になってやろう、ということで、10年前からは、生徒会とシードルームの会というボランティアの団体と手を結んで、現在まで一緒に取組をしてきています。

<西浦> なるほど、生徒からの活動だったんですね。

<安松> そうですね、はい。

<西浦> では、先生自身が休眠衣料の活動を通して学んだことや、感じたことは何かありますか？

安松 そうですね。私自身も、生徒会の係をするまでは、これは3、4年前になりますけれども、自分からボランティアという形で、この活動に行くことは、あまりありませんでした。係として参加させてもらって、やっぱり一番強く感じるのは、一緒に参加する生徒さんのパワーとかエネルギーもそうなんですけれども、地域の方、温かい声かけって言うんですか、それには驚かされますし、すごく励まされますし、あたりまえのように受付で名簿を書いてもらったりするんですけれども、カンパについては、こちらから申し出るんじゃなくて、「カンパ出しますね」「カンパ入れさせてください」ということで、自分から進んで、そういう形で声かけをしてくださって、すごい、ありがたいなあと思っています。

それと、やはり休眠衣料活動を通じて、この衣服が送られている国ですね。今まで聞いたことなかった、ウガンダとか、ラオスとか、ガーナとか、あまりなじみのない、どこにあるのかな、という地図で調べないとわからないような国なんだけれども、そういう国を意識するように、やっぱり、なりました。そういう活動をしているから、本当に届いて、どんな形でこの服が利用されているのかな、ということに、特にここ2、3年、私、すごく強く関心を持っているんですね。やはりアフリカの地域の勝手

なイメージは、暑い国ではないか、裸でいるんじゃないかとか、なんか勝手に思っ
てしまっているんですけど、割と冬の衣服なんかも必要だということ言われます。
と言うのは、朝晩とかかなり気温差が激しいので、そういうやっぱり過酷な気象条件と
か、自然の条件のある国で、しかも、いろんな意味で状況厳しいところで頑張ってお
られる人たちもいるんだと。これが届くことによって、元気になったりパワーをもら
える方がいる、そのことがまた、私たちの力になるなあということを感じて、なんか
すごく、この活動を通して、私自身もエネルギーをもらえているなというふうに思っ
ています。

西浦 では最後に、校外の方へむけて休眠衣料について、何か一言、お願いします。

安松 はい、長く続けている活動ですけれども、皆さん、もし、名前を聞いたりとか、チ
ラシを目にされたりしたら、是非また園田学園の方に、問い合わせをしてもらっても
結構ですし、10月の29日、30日、土・日ですね、やっておりますので、様子を見
て頂いても結構ですし、関心を寄せて頂けたらありがたいなと思っています。

西浦 ありがとうございます。

<西浦> いかがでしたか？

<茶谷> 小さなとりくみがやがて地域の方々にも浸透して、13年も続いてきたのには、生徒
会をやっていた私自身もとても驚きました。

<西浦> ちなみに茶谷さん、昨年度の様子はどんな感じでしたか？

<茶谷> 昨年度は、地域の方々をはじめ346世帯の方々が来校してくださり、集まった衣服
は20,571着、ダンボールにして実に887箱になりました。

<西浦> 887箱！すごいですね～！

<茶谷> しかしですね。たいへんなのはその輸送費なんです。ダンボール一箱を送るにも
1000円以上の輸送費がかかります。なので、衣料と同時に輸送費のカンパもみなさん
にご協力を呼びかけています。昨年はおかげさまで239,082円ものカンパをご提供い
ただきました。

もちろんこの活動には、地域の方々だけではなく、園田学園の教職員や生徒もたくさ
ん関わっています。

<西浦> そうなんですね！

私も3年生になってしまい、今年がこの取り組みに関われる最後になるので、
当日のボランティアスタッフをやってみようと思っています。

<茶谷> 今年は10月29日の土曜日、30日の日曜日に行われます。西浦さん、ぜひがんば
って参加してくださいね。

<西浦> わかりました。それではここで、生徒会長として、昨年度の「休眠衣料を世界へ送ろ
う」の企画・運営に携わってきた西家(にしけ)こころさんからのメッセージを紹介
させていただきます。

<西家> こんにちは。前生徒会長の西家ところです。私は4年間、生徒会役員として「休眠衣料を世界へ送ろう」に携わってきて、地域のつながりの大切さを学びました。

私たちは、日常生活を営むだけで満足しすぎていると感じます。日本だけの問題として捉えるのではなく、グローバルに考えられる人に成長し、休眠衣料だけにとどまらず、他のボランティアにも参加したいと思いました。

活動を続けて行くということは、続けて行こうと言う人がいないとできません。さらに、休眠衣料と言う活動を、たくさんの方に知って頂かないと、服を捨てずに残してもらうことができません。ここ数年、提供頂ける衣料も、カンパも減ってきているので、もっと協力していただく地域を広げ、協力したい、と思ってもらえるように、生徒会も努力しなければなりません。

なぜ始まったのか、どういう思いで活動しているのかを、校内にも、地域の人たちにもきちんと伝え、休眠衣料のことをもっと知ってもらうことが大切だと思っています。

<西浦> 茶谷さん、どう思いましたか？

<茶谷> 生徒会長として活動してきた西家さんだからこそ、強い気持ちが伝わってきましたね。

<西浦> そうですねえ。私自身3年生ですが休眠衣料について、まだまだわかっていない部分があったなあと感じました。私と同じように「休眠衣料」という言葉しか知らない生徒も多いと思います。こうやってラジオで校外の方々に活動を知ってもらうことももちろん大切ですが、まずは校内に、もっと協力を呼びかけることが必要ですね。

<茶谷> 私たちもあらためて、クラスに呼びかけていこうと思いました。

西家さん、メッセージありがとうございました。

<西浦> ありがとうございました。

<茶谷> さて、西浦さん、今日は「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみをご紹介しましたが、いかがでしたか？

<西浦> ただ着なくなった服を集めて発展途上国に送るだけでなく、その裏側には生徒会の皆さんの思いや苦労、努力があって初めてこの「休眠衣料を世界へ送ろう」という活動ができているんだなあ実感しました。

<茶谷> 私は「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみに、2年間携わってきました。初めて話を聞いた時は、単に、服をダンボールに詰めて送る活動かと思っていました。しかし、実際に活動してみると、世界ではとても多くの人が着る物にも困るような生活を送っていることがわかりました。この活動を通じて、世界中の困っている方々に、少しでも役立つことができたかと思えるようになりました。

<西浦> では最後に、2016年度「休眠衣料を世界へ送ろう」についてのご案内です。今年度は

10月29日 土曜日 午後1時30分から午後4時までと、

10月30日 日曜日 午前10時から午後3時までの、2日間となっています。

収集場所は両日ともに園田学園中学校・高等学校西門前となっています。

ただし、お願いしたいことがあります。

衣料を提供していただく際、和服やベビー服、ベビー用品、布団、ネクタイ、ベルト、手袋、帽子は受け付けることができませんのでご注意ください。

<茶谷> あらためまして、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

<西浦> それでは、お別れの時間となってしまいました。

お送りしたのは、園田学園高等学校放送部3年生の西浦 光玲と

<茶谷> 同じく放送部3年生の茶谷 祐衣でした。

<2人> それではみなさん。本日はありがとうございました！さようなら！

市長 いかがでしたか？ それでは、次回の放送もお楽しみに！

以 上